

中海

(なかうみ)

位置：北緯35度32分、東経133度09分／標高0m／面積：8043ha／湿地のタイプ：汽水湖／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区／所在地：鳥取県米子市、境港市、島根県松江市、安来市／登録：2005年11月／国際登録基準：5、6／EAAFPネットワーク参加地

湿地のタイプ：汽水湖



左からカイツブリ、ミサゴ、バン、コハクチョウ

北西から見た中海の全景

湿地の概要：

中海は、鳥取県西部と島根県東部にまたがり、斐伊川水系の宍道湖の下流に位置し、境水道を通じて日本海につながる汽水湖である。面積は約9200ヘクタールで、国内5番目の面積を有する湖である。水深は平均5.4m、最深部で8.4mである。

塩分濃度は、日本海から流入する海水の影響で、海水の約2分の1と、宍道湖の海水の約10分の1に比べて濃い。同じ水系の同じ汽水湖だが、二つの湖にはそれぞれの特色があり、淡水性および海水性の両方の動植物が生息する多様な自然環境を有する。

人と自然との共生へ：

中海では1963年以降、新たな農地を確保するために干拓事業がはじまり、湖内の淡水化が計画された。しかし、市民運動や減反政策もあって干拓事業は中止となり、2002年には淡水化計画も中止となった。そのような背景から、ラムサール条約湿地登録の気運が盛り上がった。

この干拓事業の過程で、米子市の北西5kmの彦名干拓地にできた池に多くの水鳥が集まるようになった。米子市はこの30ヘクタールの干拓地を水鳥公園として整備し、水鳥観察と環境教育の場として利用している。

また、中海では古くから漁業が営まれてきた。最近では、クロソイ、スズキ、ヨシエビなどの漁場の造成など、さらなる水産振興が取り組まれている。

我が国有数のガンカモ類の飛来地：

中海一帯では200種以上の鳥類が確認されている。

とくにガンカモ類は、年平均約7万5000羽以上が渡来する、国内最大級の飛来地となっており、国際的にも重要な水鳥の生息地である。

また、コハクチョウ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモは、東アジア地域個体群の個体数の1%以上を定期的に支え、コハクチョウは宍道湖とともに西日本最大の越冬地である。

【コハクチョウ】全長120cm。全体が白

色、くちばしの基部は黄色で先端部が黒く、オオハクチョウより小さい。ユーラシア大陸と北米に分布。ツンドラ地帯で繁殖し、冬、日本に飛来し、主に日本海側の湖沼や河川で越冬する。中海、宍道湖が西日本最大の越冬地となっている。

●関係自治体

米子市役所 Tel: 0859-22-7111
境港市役所 Tel: 0859-44-2111
松江市役所 Tel: 0852-55-5555
安来市役所 Tel: 0854-23-3000

